

1. 研究課題名：
放射能汚染土壌の除染実用化技術の開発

2. 研究代表者氏名及び所属：
逸見 彰男 国立大学法人愛媛大学農学部 教授



3. 研究実施期間：平成 24～25 年度

4. 研究の趣旨・概要

土壌除染については、現在のところ表皮土壌の剥離や高圧水除去といった方法しかなく、真の除染になっていない。

このため、 Cs 等の放射性陽イオン核種を選択特異的に捕獲する NaP1 型ゼオライトを用い、これを土壌散布した際、回収を容易にするための磁性化と分離回収する磁選機の開発により、 Cs 等放射性元素だけを取り除く真の除染技術確立をめざす。

これにより、数千～1 万 Bq/kg の放射能汚染土壌を 100～500Bq/kg 以下まで下げ、作物レベルで 20Bq/kg 以下まで下げる除染技術の確立を期している。

なお、本技術は、原料を石炭火力発電所の焼却灰を原料としているため、農家が土壌改良材で投入する経費相当（1 万円/反以下）で、また、土壌散布という簡便な操作でできることから、普及が容易で膨大な面積に対応が可能と考えている。また、既設原発電力施設にあっては、有力な備蓄用除染資材になるものと思われる。

5. 研究項目及び実施体制

- (1) 磁性化高 C E C ゼオライトの製造技術の開発(国立大学法人 愛媛大学)
- (2) 放射性土壌分離用磁選機の開発(国立大学法人 愛媛大学)

6. 研究のイメージ

放射能汚染土壌の除染実用化技術の開発

